



作り手の思いを伝えるふれあい通信

まんまにしよ

発行元：魚沼農耕舎
〒946-0216
新潟県魚沼市須原 20-5
NO.22
発行日：R2.5.15

コロナウィルスによる
自粛の中、春作業が着々と
進んでいます！



←2020年、育苗担当の理事長金子芳博
毎朝、苗からパワーをもらっています！
朝露がとってもキレイですよ！

「苗半作」という言葉をご存じですか？

今年の育苗ハウスは、金子が担当しています。ですので、田植え機に乗ることはありません。その代わり田植え機のオペレーターに、喜ばれる苗づくりを心掛けています。

それは、しっかりと根っこが張った草丈の12センチ程度のずっしりした苗。当然のことながら、他の品種が混ざっているなんてことは、ありません。病気にかかったものも、もちろんありません。

よく冗談で言うのですが、「茶髪のロン毛」にならないよう、気を付けています。「茶髪のロン毛」の茶髪とは栄養失調で、若干、黄色味をおびている苗。ロン毛とは草丈の伸びすぎてしまった苗のことです。

良い苗は、田植え後の生育が非常に良い！苗がその後の生長の半分以上を決めてしまうとも言われています。つまり良い苗ができれば今年の稲づくりの半分は成功したようなものです。

こういったことから、農業の専門用語「苗半作（なえはんさく）」という言葉が生まれたのでしょう。

そのため、芽が出たばかりのころは、布団代わりのシートをかけて温めてやる。日が出て暑くなるようであれば窓を開け、寒くなるようならしめる。たまに雪が降ろうものなら、育苗ハウスがつぶれないように中からつついて雪を落とす。灯油ストーブを付けるときもある。早朝とお昼に水をやり、生育を促す。ハウスの中では、つつい甘やかしてしまうため、わざと踏んで鍛える。早めに外気にあて、寒さという世間に負けないようにする。いよいよ田植えが近づくと、母がお弁当を持たせるように肥料をあげる。厳しい環境に負けないように。そして、立派なお米になってくれよと。

そんな風に、私は作りたい。（宮沢賢治の「雨にも負けず」風に書いてみました。）

会員No. 4 金子 芳博

一般財団法人 魚沼農耕舎は：

新潟県でも有数の豪雪地である魚沼市北部の広神、守門、入広瀬、各地区に田んぼがあります。約1000枚の豊富な雪解け水が流れる田んぼでは、コシヒカリなどの米を37ha、そば38haを作っています。地域の担い手として、耕作者のいなくなった農地を守っています。

〒946-0216 新潟県魚沼市須原 20 番地 5 WEB www.uonuma-agri.or.jp/
TEL 025-797-2255 FAX 025-797-2562 Mail info@uonuma-agri.or.jp



春作業が始まっています！

春はまず、田を起こして(耕起)、代掻きをして平らにしてから、苗を植えます。
代掻きは、春、一番技術が必要な作業なので、今年の代掻きはベテランチーム、田植えはまだまだフレッシュな3年目の若手チームが担当です。



代掻きチーム



代掻き クボタSL60



田植え クボタEP8D



田植え クボタ NW8S

←スマートな田植え機を導入しました！GPSを搭載し、手を放しても直進キープできるなど、先進技術が搭載されています！



田んぼに苗並べ

私たち魚沼農耕舎は農薬と化学肥料を使用しない有機栽培に取り組んで、5年目になります。有機栽培は他のコシヒカリとは別の苗床が必要です。種まきをして、小さい芽が出た後は有機栽培の田んぼの一角に作った苗床に人力で並べます！八海山が見える眺めがいい田んぼです。



YouTube 始めました！



ドローン撮影 小さい田んぼでも8条田植機 クボタ...
170 回視聴・1 日前



トラクターSL60、ロータリからハローへ付替え Tractor...
8972 回視聴・2 週間前

4月から本格的に、チャンネル投稿開始しました！

2020年のうちに100本投稿!!を目標に、日々ネタを求めて現場へ向かっています。

分からないことだらけの手探り状態ですが、少しでも、魚沼農耕舎の認知度が高まり、私たちのお米を食べて下さる方が増えるといいなと思っています。

どんな田んぼで米を作っているのか、田んぼを取り巻く魚沼の環境は?どんな舍員たちがお米作りに携わっているのか、などなど色々な様子を皆様と共有出来るようにと、考えております。是非、こんなのが見たい!などのご希望や、ご質問があれば、どんどん寄せていただければと思います。右のQRコードから、是非、魚沼農耕舎チャンネルをご覧ください！



編集後記 コロナウィルスによる感染症が収束しつつあり、緊急事態宣言が一部解除され始めている今日この頃ですが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。感染症が完全に収束し心おきなく買い物をしたり、旅行に出かけたりでき、日本の経済にきちんと血が通って循環するように、早くなるといいなと思っています。

「まんまにしょ」は「ご飯を食べよう」という意味で、魚沼では老若男女が使います。響きがあたたかく、ほっこりするような、日々使うこの言葉をとってこの通信の名前にしました。

魚沼農耕舎は、皆さまが毎日美味しくご飯を食べて頂く為に、少しでもお役に立てればとの思いで、日々お米やそばを作っております。今後も、お米やそばが出来るまでの作業風景や田んぼの様子など、いろいろな事を皆さまにお伝えし、繋がっていきたくと思っています。

※万が一、農耕舎たよりの送付を希望されない方がいらっしゃいましたら、表面の連絡先までご一報下さい。(R.K)